

# 「食事ケア班：根拠ある食事介助を看護から発信しよう！活動報告

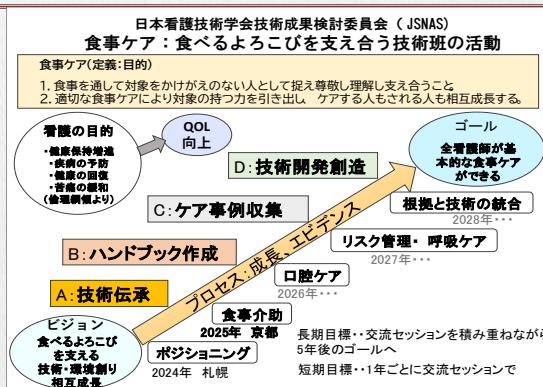
～誤嚥を防ぎ安全・安心な食事介助技術～

1. 日時：2025年10月12日（日）
2. 場所：京都大学百年記念講堂 第Ⅲ会場
3. アンケート結果  
・参加者47名、回答24名（回答率51.1%）

今年度の交流セッションは基本技術の中の「食事介助」に焦点を当て基礎教育や臨床に活かす根拠ある食事介助技術と質的向上を目指して以下の内容を企画しました。

本セッションでは、自分の目でみて捕食し嚥下するまでの過程を体験的に理解し、なぜ食べられないのか？どうしたら食べられるのか？と共に考え、五感を生かした食事介助技術を体験することを目的としました。

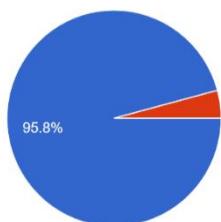
- 1.食事体験：“見る・食べる・飲み込む”を意識してみよう。体験的に摂食嚥下の5期モデルを理解する
- 2.五感に働きかける食事介助のデモンストレーションとミニ演習：不適切（不利益）な食事介助、適切な（対象の持てる力を引き出す）食事介助の両方を実演し、体験から内省を経て基本的な食事介助の根拠やポイントを理解する。
- 3.食事介助の意見交換会：教育方法や参加しての感想、現場の話など、皆で意見交換を行う。



## ✿アンケート結果✿ (回答者:12名)

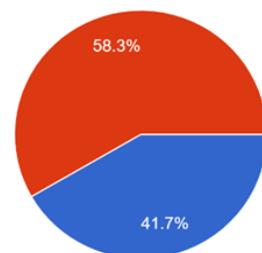
### 1. 貴方の職種を教えて下さい

24 件の回答



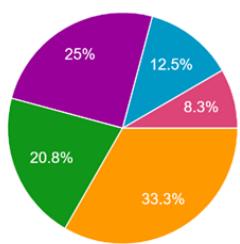
### 2. 貴方の職場を種類を教えてください。

24 件の回答

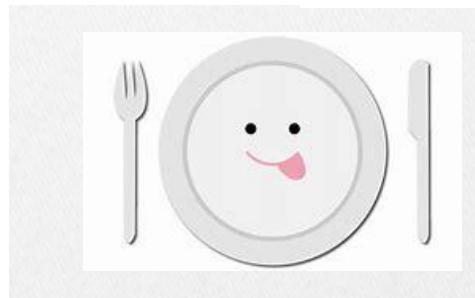


### 3. 貴方の住んでいる地域を教えてください

24 件の回答

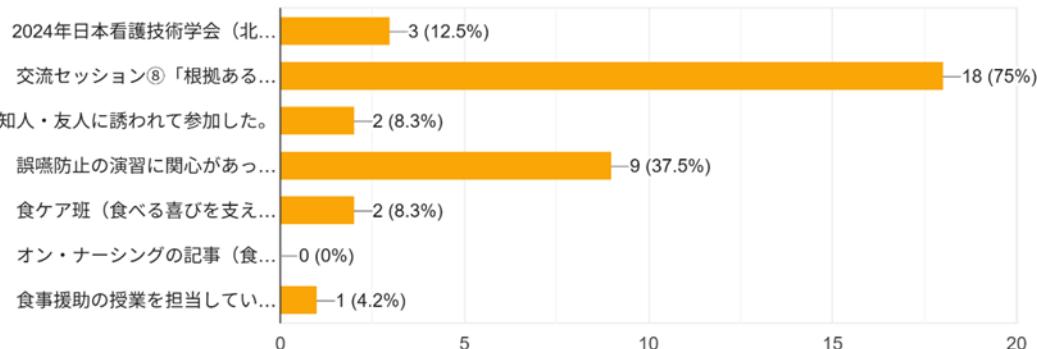


● 北海道  
● 東北  
● 関東  
● 中部  
● 近畿  
● 中国・四国  
● 九州



### 4. 日本看護技術学会2025 交流セッション⑧ 参加のきっかけを教えてください。複数回答可

24 件の回答



✿交流セッション⑧に参加して、印象に残っていること、明日からやっていきたい（教えていきたい）と思うことなどお聞かせください✿

- ①嚥下は反射である、という事。食事の前提としてのコミュニケーション。
- ②普段から指導していることの根拠を改めて認識しました。
- ③場面の実演があったため、非常にイメージしやすかった。
- ④良くない例からの学び・気づきをすごく感じました。食べるということは学生にとってごく当たり前に行っていますが、いつも良い例ばかり提示していました。良くない例から考えさせるという方が、頭がよく働くし、その後の良い例がグッと頭に入ってくると感じました。
- ⑤今までやってきた食事介助で、正しかったものもあれば、間違っていたこと也有ったので、再認識できて良かった。

## ✿交流セッション参加者のご意見✿

- ・看護の初学者である学生に、看護師が食事援助をする事が、いかに専門性の高い技術であるのか、という事が難しく悩んでいたので、今日のセッションは大きな学びでした。ありがとうございました。
- ・ベッド上でのポジショニングを再確認したかったです。
- ・授業で担当するので具体的な事例のデモンストレーションが参考になりました。
- ・とてもわかりやすかったです。解剖生理も含めて説明があるとよりわかりやすい。
- ・参加して良かった。
- ・麻痺がある方など重症度が高い方の援助などあると嬉しいです
- ・いくつかの事例を実際に見ることで考えることができました。授業で食事の援助を担当しているので学生達が考えられるように教えていただきたいと思います。ありがとうございました。
- ・バスタオル、専用枕はやはり、高いですね。POTTの本の紹介をもう少し詳しくしていただけたと更に良かったかと思いました。もう少しありがとうございました。
- ・細かな色々なポイントが具体的にわかった、患者のパターンもそれぞれ違う中、色々な場面想定での食事介助の仕方がわかりやすく理解できた

## ✿技術班メンバーの振り返り・今後に活かします！✿

迫田綾子・原 等子・定松ルリ子・吉村直美・大久保暢子・杉山理恵・水戸優子・  
山田正己・川畠直子・田畠千穂子

### ＜全体＞

- ・会場スペース以上に参加者が多かった（47名）と追加の椅子を準備しました。
- ・臨床と教育が融合するような交流セッションとなった。
- ・材料なども用意でき、車いすでは無くてもこのようなスタイルでよかった。
- ・ポジショニングが大切なことと伝わったと感じた。

### ＜支援者からの一言コメント＞

- ・デモンストレーションが出来たことでメリハリがありよかったです。
- ・認知症患者への介助への関心が高かったです。
- ・事例の振り返りがよかったです。
- ・カメラワークで横・立て・などがわかりやすかったです。
- ・動画を作れそうなほどの企画であった。臨時で香川県からの参加者の協力も得られてよかったです。よく食べてくれた。
- ・参加者の中で、司会があつた素晴らしかった。ポイントを押さえ、どの方も意見を引き出していく
- ・交流セッションの実践例は、「口の中を見る」「態度」など、3事例がそれぞれにカバーし合いながら、基本的な食事ケア技術を押さえることができていたのではないか。
- ・実演の場所が会場の真ん中で設定がよかったです。近くにいても見えない部分があるが映像でよく見れた。
- ・来年度の実践例として、「へたなポジショニング」「雑な口腔ケア」「食事介助Ⅱ」など企画してはどうかなど、いろいろな企画が浮かんでくる交流セッションであった。

